

## 金剛萱遺跡の旧石器文化2 – 2015・2016 –

Palaeolithic Culture of the Kongokaya site 2, 2015-2016

金剛萱遺跡研究会\*<sup>1</sup>

Kongokaya site research group

キーワード：旧石器時代，石器，発掘，無斑晶質安山岩，八風山安山岩

Key words : Palaeolithic, stone tool, excavation, aphyric andesite, Happusan andesite

### 例 言

- 1 本書は，金剛萱遺跡における旧石器時代の遺跡調査に関わる報告書であり，2015年から2016年分までをまとめたものである。
- 2 調査は，金剛萱遺跡研究会が下仁田町教育委員会の指導・協力をを受けて実施した。
- 3 本書は，調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に，基礎資料を提示することに重点をおいた。
- 4 本稿の編集・執筆は，中村由克，麻生敏隆が担当した。
- 5 調査によって出土した諸資料は，下仁田町自然史館で保管している。

### 調査の経過

金剛萱遺跡は2007年8月にその存在が知られ，2009年4月に遺跡であることが判明し，金剛萱遺跡研究会が結成された。2009年11月の調査で旧石器時代から縄文時代の遺物散布地が広がっていることが推測され，下仁田町教育委員会が金剛萱の北麓の平坦な緩斜面から山頂まで含めたエリアを金剛萱遺跡として埋蔵文化財包蔵地に登録した。

林道地点は2011年5月に大露頭より1段高い緩斜面の中で下仁田ローム層上部層（関東火山灰グループ2009）まで削られた切り通しの作業道で発見された。2011年9月（第1回），2013年11月（第2回）の発掘成果は，金剛萱遺跡研究会（2016）にまとめられている。

その後，2015年11月21日から23日に第3回発掘，2016年4月29日から5月1日に第4回発掘，さらに2016年10月29日・30日に第5回発掘を実施した。本報告は第3回～第5回の発掘調査の成果を記載する。

### 遺跡の環境

下仁田町は地質上，西南日本と東北日本の接点にあたり，ほぼ東西方向に中央構造線がとおり，その一部分である大北野-岩山断層より南側には，三波川結晶片岩・御荷鉾緑色岩類や秩父中古生層などの古期岩類がつくる山地が分布し，金剛萱の山頂から遺跡のある緩斜面は秩父中古生層の分布域にあたる（「下仁田町と周辺の地質」編集委員会編2009）。

調査地の金剛萱は鐮川支流の青倉川東にそびえる標高788mの独立峰で，山頂のすぐ北側には緩斜面が広がっている。今回の発掘地・林道地点は2か所の畑地（コンニャク畑地点）よりさらに高い場所

2017年2月15日受付。2017年2月21日受理。

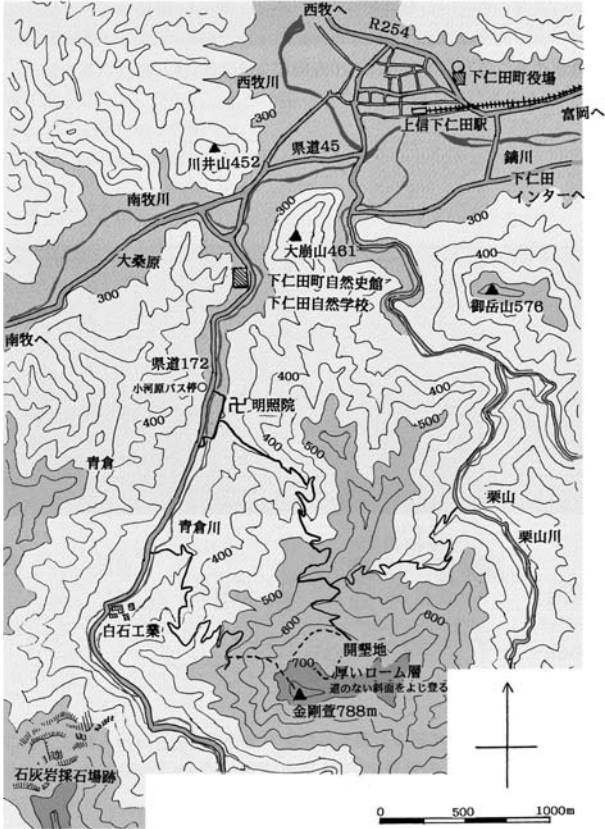
\*1 事務局：〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町青倉158-1 下仁田町自然史館 中村由克気付 (naka-m@opal.plala.or.jp)  
c/o Yoshikatsu Nakamura, Shimonita Museum of Natural History, 158-1, Aokura, Shimonita-machi, Kanra-gun, Gunma, 370-2611 Japan

にある平坦な場所である（金剛萱遺跡研究会ほか編 2014）。東西方向に延びる金剛萱の山頂部の北斜面が大規模地すべりが原因で急斜面となっている（大規模地すべり研究会 2016）が、その斜面直下に

広がる平坦地の一角に当たる（第1図、第2図）。

下仁田地域で遺跡が多く立地するのは、鐮川右岸の馬山丘陵である。下仁田 IC の場所にある下鎌田遺跡（下仁田町遺跡調査会 1997）から南西に長尾根遺跡、観音寺原遺跡、富士塚遺跡、米山遺跡（小島ほか 2010）など縄文時代と古代を中心とする遺跡がほぼ連続的に分布する。下鎌田遺跡と米山遺跡では発掘調査時に旧石器時代の遺物も少量ではあるが出土している。富岡市域にあたる鐮川左岸や丹生川流域にも縄文や平安時代の遺跡が散在する。

現在までに下仁田町では、旧石器時代の遺跡は金剛萱遺跡と下鎌田遺跡、米山遺跡の3か所が知られている。縄文時代の遺跡は、上述の馬山丘陵をはじめ西牧川沿いの段丘面などに36遺跡が知られている。

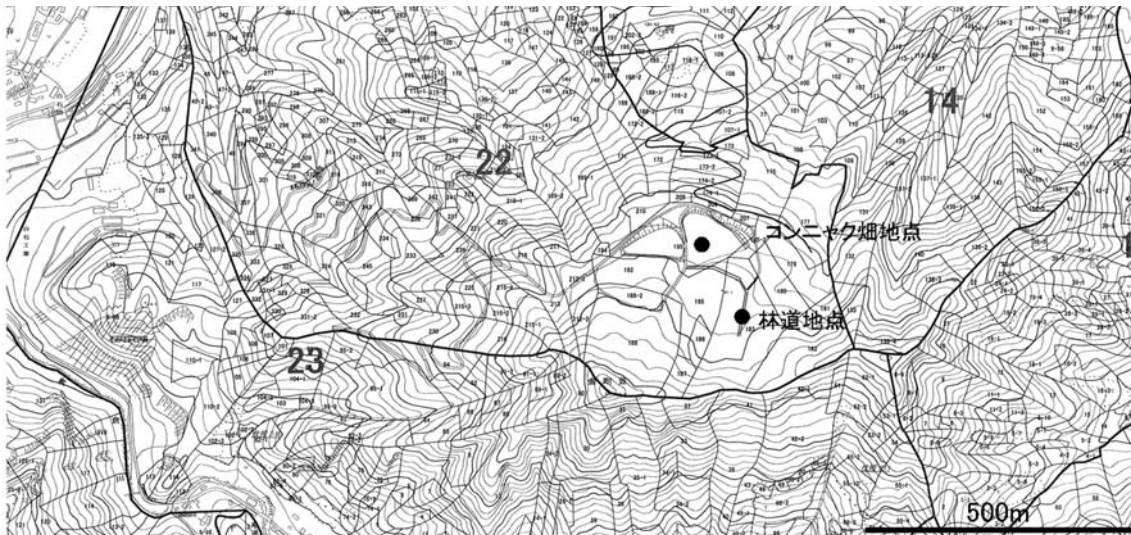


第1図 金剛萱位置図

### 金剛萱遺跡林道地点の調査

#### 1 調査地の状況と調査の概要

発掘地（林道地点）は、下仁田町大字青倉金剛萱1031番地にあり、針葉樹の植林のなかにある。広いコンニャク畑（コンニャク畑地点）より南側にあたり、未舗装の作業道の敷地である。作業道は車1台がかろうじて通れる広さであり、平坦にはされているが、道路の構造物は一切設けられていない。この場所では作業道は原地形をかなり削って通って



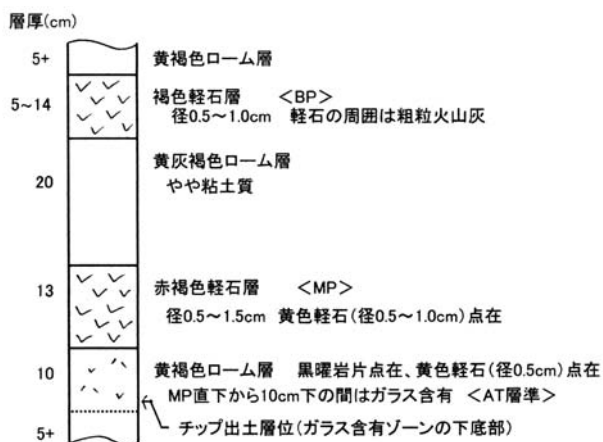
第2図 金剛萱遺跡位置図（●印）

て、道路面は掘削された場所で、ローム層が露出している。したがって、道路面をそれほど掘削しないでも目的とする始良 Tn 火山灰層 (AT) 前後の暗色帯が調査できる状況となっていた。

発掘地における地質層序は、地表からかなり削平された状態で、上位より 5cm 黄褐色ローム層、5～14cm 褐色軽石層 (浅間板鼻褐色軽石: BP)、20cm 黄灰色ローム層、13cm 赤褐色軽石層 (浅間室田軽石: MP)、15cm + 黄褐色ローム層という層位である。最下位のローム層では、MP 直下から 10cm ほどのゾーンには火山ガラスが含まれ、AT 層準であることがわかる。剥片等の遺物は、この AT 層準付近から出土している (第3図)。

## 2 林道地点の調査経過

2015年春の調査 (2015年4月11日-12日): 午前中に林道地点などの発掘地点の巡検。午後より試掘調査班、ハンドオーガー班、地すべり調査班に分かれ調査。試掘調査は林道地点発掘地の東方の緩斜面のなかの微高地に A 地点 70×140cm、B 地点 100×100cm、C 地点 80×140cm、D 地点 50×200cm の 4 か所を手掘り掘削。A 地点は 110cm まで掘削したのち、その面から 3m 地下までハンドオーガー調査をおこない、地下に水成層が存在することを確認した。いずれの地点も考古遺物の出土はなく、遺構・遺物の範囲外であることを確認した。11日午後3時からは、局部磨製石斧の発見の意義を中心に金剛萱

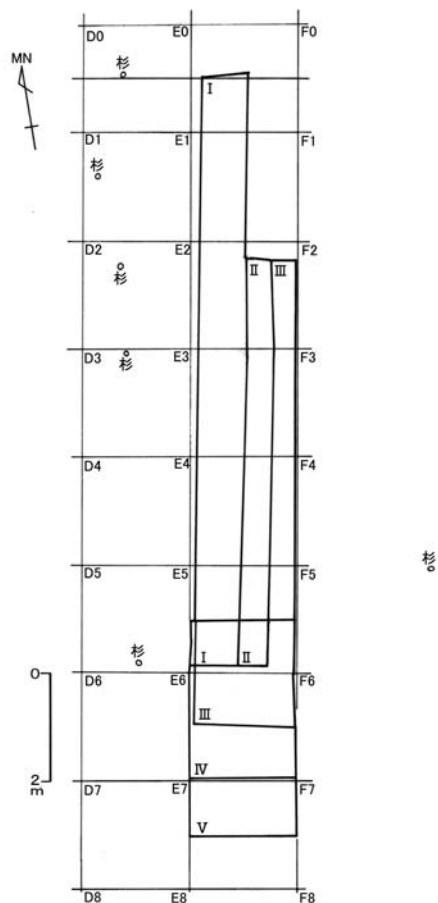


第3図 林道地点の地質柱状図

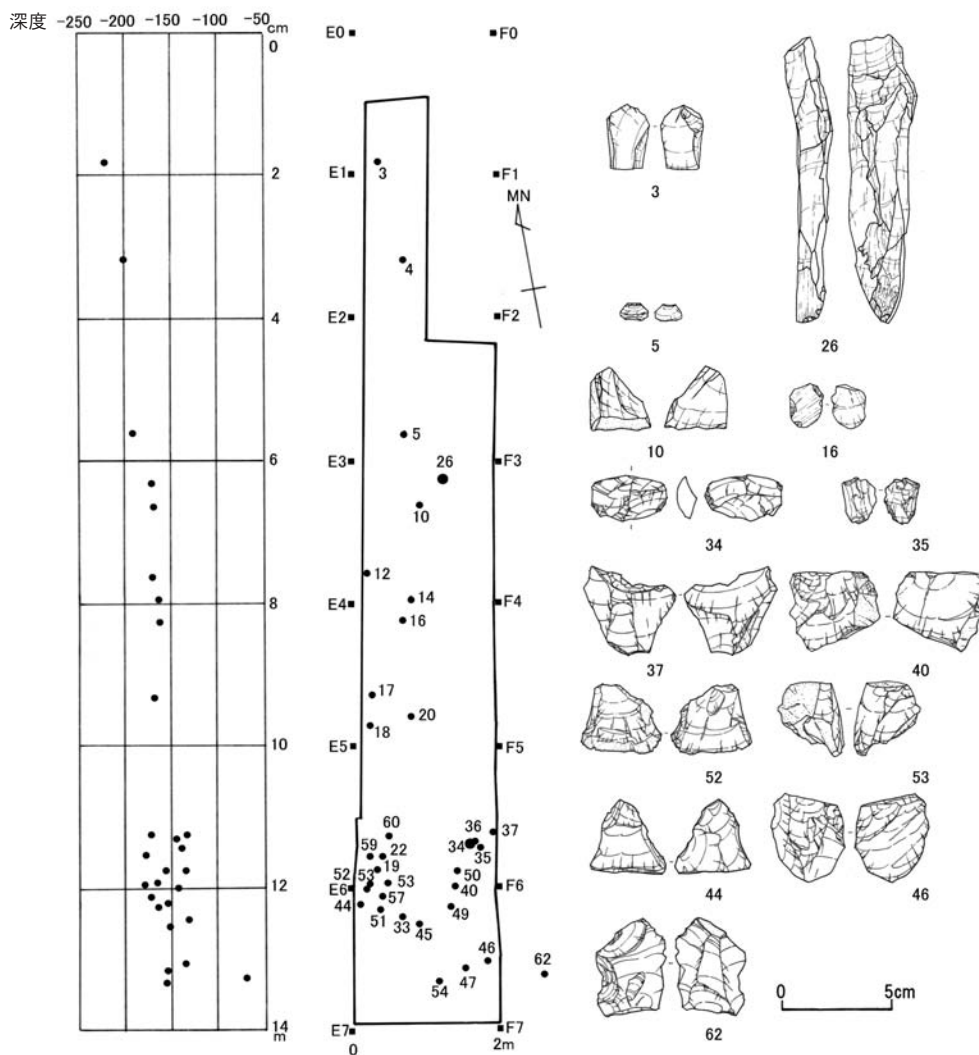
遺跡発掘成果報告会が下仁田町文化ホールで開催され多くの参加者があった (講演者: 中村由克)。

第3回発掘 (2015年11月21日-23日): 作業道がローム層まで削って作られている場所に、道路部分にそってほぼ南北方向の調査区を設定。2014年の発掘地を東側に 50cm 拡張した区画を設定した。その結果、2.0m×8.6m のトレンチを道路沿いにほぼ南北方向に調査した。掘削はすべて手掘りで、遺物包含層が予測される暗色帯を掘りきるまで行われた。トレンチの掘削深度は、20～50cm である (第4図、第5図)。この付近には標高の基準がなかったので、調査グリッド北西端の A 杭を基準として、+200cm にレベルを設定し発掘地及び出土品の位置を計測した。下仁田中学校 1・2 年生 15 名が 21 日午前中発掘参加。

第4回発掘 (2016年4月29日-5月1日): 発掘地の測量をおこない、2m 単位のグリッド設定をおこ



第4図 林道地点の発掘グリッド図



第5図 林道地点の石器分布図（第1回～第5回）

ない、全体のグリッド名を決定する。第3回発掘のグリッドを南側に1m拡張した区画を設定した。その結果、今回はE5グリッドの南半とE6グリッドの2.0m×3.0mの範囲を調査した。トレンチの掘削深度は、30～60cmである。無斑晶質安山岩製の剥片が集中して出土。

**第5回発掘（2016年10月29日～30日）：**第4回発掘地の範囲では、遺物包含層の掘り残り部分を掘削し、無斑晶質安山岩の剥片類が集中して出土。さらに前回より南側に1m拡張した。トレンチの掘削深度は、30～80cmである。

### 3 旧石器時代の遺物

金剛萱遺跡林道地点の第3回発掘調査で出土した資料は、総数10点で、6点（遺物番号：33～37, 40）は人工的な遺物である。その他に石片4点がある。第4回の発掘調査で出土した資料は、総数12点で、10点（遺物番号：44～47, 49～54）は人工的な遺物である。その他に石片2点がある。第5回の発掘調査で出土した資料は、総数7点で、5点（遺物番号：57～60, 62）は人工的な遺物である。その他に石片2点がある。

以下は第3回～第5回の発掘調査で出土した主要な遺物を記載する（第1表、第6図）。

1は、やや大きな剥片の一部が折り取られたもの

第1表 金剛萱遺跡・林道地点（第3回発掘～第5回発掘）出土の遺物一覧

No	遺物番号	名称	石材	長さ	幅	厚さ	重量	深度
1	KON15-34	台形石器※	無斑晶質安山岩	21.5	35.0	10.2	5.1	138
2	KON15-35	石斧調整剥片	結晶片岩	24.2	18.2	4.7	2.1	139
3	KON1610-62	石核	碧玉（鉄石英）	34.6	52.0	13.6	23.8	68.5
4	KON15-40	剥片	無斑晶質安山岩	40.2	43.8	16.0	25.2	143
5	KON1604-46	剥片	無斑晶質安山岩	44.4	37.9	15.6	21.3	134
6	KON1604-52	剥片	無斑晶質安山岩	36.0	41.3	15.1	15.6	165
7	KON15-37	剥片	無斑晶質安山岩	41.0	41.8	7.4	10.4	133
8	KON1604-44	剥片	無斑晶質安山岩	35.6	35.1	8.2	9.3	163
9	KON1604-53	剥片	無斑晶質安山岩	36.6	30.7	12.1	11.6	165
10	KON1604-45	剥片	無斑晶質安山岩	33.0	16.7	12.8	4.6	151.5
11	KON1604-54	剥片	無斑晶質安山岩	34.4	19.4	11.5	5.1	154
12	KON1610-57	剥片	無斑晶質安山岩	25.4	23.2	9.4	5.2	171.5
13	KON1610-58	剥片	無斑晶質安山岩	30.9	22.3	10.9	6.7	176.5
14	KON15-33	剥片	無斑晶質安山岩	17.9	15.1	5.5	1.5	131
15	KON15-36	碎片	無斑晶質安山岩	10.5	7.7	3.2	0.2	144
16	KON1604-47	剥片	無斑晶質安山岩	21.6	13.0	4.4	1.1	151
17	KON1604-49	剥片	無斑晶質安山岩	21.2	14.2	7.5	2.0	155
18	KON1604-50	剥片	無斑晶質安山岩	13.8	18.6	6.2	0.9	155
19	KON1604-51	碎片	無斑晶質安山岩	12.8	10.1	1.6	0.2	162
20	KON1610-59	剥片	無斑晶質安山岩	14.5	13.1	4.3	0.8	176.5
21	KON1610-60	剥片	無斑晶質安山岩	16.6	11.2	6.3	1.1	171

※微細剥離痕のある剥片あるいは台形石器

を素材とし、左右の縁辺に微細な調整が施されている微細剥離痕のある剥片あるいは台形石器である。上端の刃部には3か所の小さな欠損がみられる。調整としたものは微細であるので意図的な石器でなく剥片である可能性もある。2は結晶片岩製の小さな剥片で、石斧の調整加工で生じたものと推定できる。3は、碧玉（鉄石英・黄玉）製の縦長剥片を素材とする石核である。剥離は側縁と末端側から行われており、最大でも長さ14.5mm×幅28.0mm程度の幅広寸づまりの小剥片を剥いている。素材の剥片は、幅広の平坦打面であり、分厚い形態である。

4は、自然面の平坦打面から剥がされた分厚い剥片である。長さとはほぼ等しく、幅広寸づまりの形態である。5は、平坦打面の幅広寸づまりの分厚い剥片である。6は、末端部に自然面を残し、打面はやや狭い平坦打面の幅広寸づまりの分厚い剥片である。7は、打面部が欠損した幅広寸づまりの剥片である。8は、小さな平坦打面をもつ幅広の剥片である。9は、背面に自然面を残す平坦打面の幅広寸づまりの分厚い剥片である。10～13は、分厚い剥片

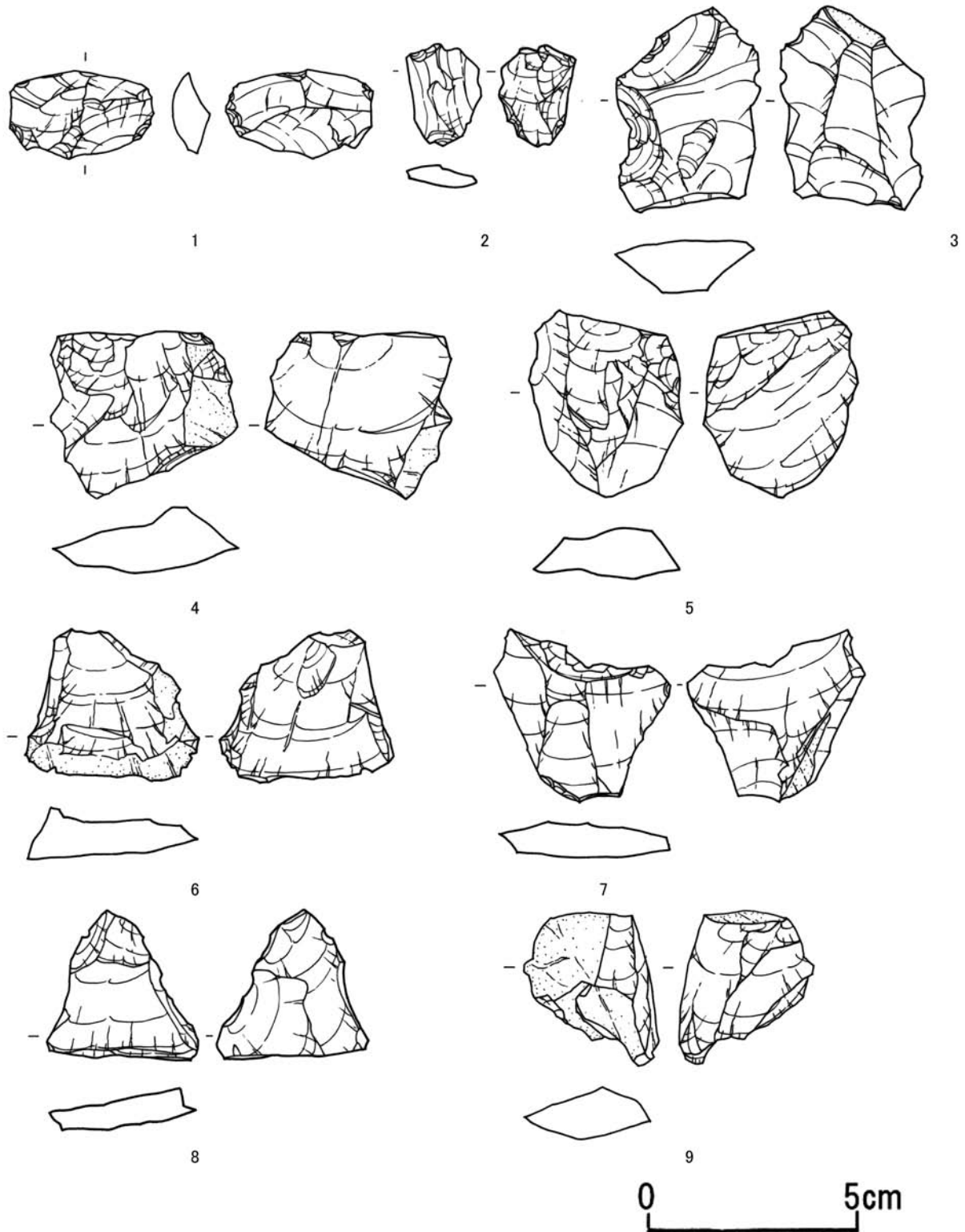
である。目的的な剥片ではなく、剥片剥離の際に派生的に生じた破片だと思われる。13～21は小さな剥片や碎片である。1, 4～21は、すべて無斑晶質安山岩である。節理面を思わせるような流理構造をもち、風化色は黒灰色で、新鮮面は黒色ち密な石材である。八風山産の無斑晶質安山岩と推定される。

これ以外に石片で取り上げたものは、在地の秩父累帯北帯起源と思われる玄武岩質凝灰岩（緑色岩）の石片である。剥離面をもつが、人為とは判断できなかったものである。

いずれも出土層序はATより下位の暗色帯中で、年代は約3.8～2.9万年前、群馬編年のI期からII期にかけての時期、武蔵野編年のX層からVI層にかけてと比定される。

### 金剛萱遺跡第3回～第5回発掘調査の意義

林道地点第3回～第5回発掘では、暗色帯中より無斑晶質安山岩の剥片を中心とするブロックが1基検出された。微細剥離痕のある剥片あるいは台形石



第6図 第3回～第5回発掘出土遺物の実測図

器1点と、長さ4～3cm程度のやや大きめの剥片6点と小さな剥片・碎片などの計20点以上で構成され

る。ブロックはE5・E6グリッドを中心に南北3m以上の範囲で、東西にはまだ連続すると思われる。

このブロック内の遺物は、無斑晶質安山岩が圧倒的に多いこと、平坦打面による幅広ですぼまりの剥片剥離がおこなわれていること、石器の完形品と思われるものは1点のみでその他は剥片類であることなどの特徴がみられる。1点表土中より発見された碧玉製の石核も同様の剥離技術がうかがえる。このような剥離技術で得られる剥片は、後期旧石器時代初期の台形(様)石器群と関連するものと推定される。

第2回発掘では、本ブロックから約5m北側のE3グリッド北部より局部磨製石斧(第5図-26)が出土している。石斧はブロック外の単独出土であるが、本ブロック内のNo2の石斧調整剥片(第5図-35)、さらに第1回発掘で両者の中間地点で同じく結晶片岩製の石斧調整剥片(第5図-16)が出土しており、今回の無斑晶質安山岩製石器群と同時期のものと考えられる。コンニャク畑地点では、無斑晶質安山岩製の基部調整のナイフ形石器1点が表面採集されており、素材は石刃であるが同時期の石器セットと推定される。

金剛萱遺跡ではコンニャク畑地点と林道地点の2か所が調査されているが、後期旧石器時代の石器が多数地層中に包含される「生活面」が検出できた今回の成果は、大きな意義がある。林道地点の石器分布の中心部は、このブロックの連続が緩斜面の上下方向(東西方向)に追跡できるという見通しが得られた。さらに、この地点での旧石器人類の活動は完成品の石器を落としたという偶然的瞬間的な「通過」現象ではなく、この地点で石器製作の活動をおこなっていたこと(キャンプ地を意味する)が判明したことである。残された剥片は破棄されたものであり、この集団が無斑晶質安山岩の微細剥離痕のある剥片あるいは台形石器や剥片石器と緑色岩や結晶片岩の石斧(中村・保科 2016)、さらに象ヶ滝起源の南牧川で採集できる頁岩(堀越・中村 2015; 珪質細粒砂岩)を所持していたことから、八風山から西御荷鉾山の周辺で石器石材を調達していたという在地的な石材利用のパターンがみられる。

金剛萱遺跡林道地点の石器群は、始良 Tn 火山灰層(AT)より以前の後期旧石器時代前半期(約3.8~2.9万年前)の時代である。岩宿遺跡と同じ時期

にあたり、群馬県西部から長野県東部では、甘楽町(甘楽 SA)の白倉下原遺跡、天引向原遺跡や安中市の古城遺跡、佐久市八風山遺跡群、立科 F 遺跡などこの時期の良好な石器群(須藤 2006; 小菅ほか 2004)が出土している。金剛萱遺跡はこれらの中間を埋める位置にある点で注目される。

金剛萱遺跡は、独立峰の高い山の山頂近く(標高約680m)に立地しており、このような場所に後期旧石器時代前半期の遺跡が見つかる例はあまり多くない。群馬県内で遺跡が多いのは、河川流域の少し小高い段丘面の端や山裾であり、また八風山のような原産地遺跡では石材の得られる沢沿いなどが遺跡の立地条件となっている。ところが、金剛萱遺跡はそのどちらでもなく、なぜここに遺跡があるのかが依然として謎である。信州に向かう山中に遺跡が立地することが、何を意味するのかは今後の課題である。

## 文 献

- 大規模地すべり研究会(2016)地すべりによる金剛萱遺跡の平坦面形成。下仁田町自然史館研究報告, 1, 25-36.
- 堀越武男・中村由克(2015) 鑄川上流地域にみられる石器石材「頁岩」の産地。群馬県立自然史博物館研究報告, 19, 115-120.
- 関東火山灰グループ(2009) 群馬県甘楽郡下仁田町でみつかつた下仁田ローム層の砂粒組成。群馬県立自然史博物館研究報告, 13, 87-93.
- 小島敦子・山口逸弘・岩崎泰一・大西雅広(2010) 米山遺跡, 県営農免道路整備事業馬山3期に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書。120p. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 小菅将夫・大工原豊・麻生敏隆(2004) 群馬の旧石器。みやま文庫, 175p.
- 金剛萱遺跡研究会(2016) 金剛萱遺跡の旧石器・縄文文化。下仁田町自然史館研究報告, 1, 1-20.
- 金剛萱遺跡研究会「下仁田自然学校文庫8」編集委員会編著(2014) 金剛萱に旧石器時代をさぐる一金剛萱遺跡と下仁田ローム層一。下仁田自然学校文庫8, 56p.
- 中村由克・保科 裕(2016) 金剛萱遺跡の局部磨製石斧の石材とその意義。下仁田町自然史館研究報告, 1, 21-24.
- 「下仁田町と周辺の地質」編集委員会編(2009) 下仁田町と周辺の地質。下仁田自然学校, 122p.
- 下仁田町遺跡調査会(1997) 下鎌田遺跡, 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書。914p. 下仁田

町教育委員会  
須藤隆司 (2006) 石槍革命・八風山遺跡群. シリーズ遺跡  
を学ぶ, 25, 新泉社, 95p.

### 発掘調査参加者

2015年春の調査 (2015年4月11日-12日)

麻生敏隆, 足立久男, 新井 節, 今井 洋, 今井よし  
子, 岩崎正春, 小川正之, 川北敏章, 神戸百合子, 小泉  
潔, 小林忠夫, 斉藤尚人, 柴野光彦, 関谷友彦, 竹本  
弘幸, 角田真也, 角田祥子, 角田玲海, 角田愛海, 角田  
春陽, 都沢純人, 中村由克, 茂木小夜子, 光井 久, 和  
田晴美, 赤崎紘一, 井熊 毅 以上27名

第3回発掘 (2015年11月21日-23日)

麻生敏隆, 有馬芳太郎, 岩崎正春, 神戸 求, 小林忠  
夫, 斉藤尚人, 桜井 洌, 須藤隆司, 関谷友彦, 角田真

也, 寺尾真純, 中村由克, 保科 裕, 真野勝友, 光井  
久, 柳澤尚幸

(下仁田中学校) 網中徳昭, 蟻坂崇仁, 岩淵陽祐, 大河原  
了俊, 岡野紘士, 小泉省吾, 小井戸竜司, 佐藤利紀, 田  
村純也, 田村駿弥, 千野京太郎, 鎮西 涼, 並木涼瑚,  
廣瀬太陽, 村木大成, 生方海志

(大規模地すべり研究会): 赤松 陽, 足立久男, 新井  
節, 小泉 潔, 佐藤和平 以上37名

第4回発掘 (2016年4月29日-5月1日)

麻生敏隆, 石井久夫, 磯田善義, 岩崎正春, 神戸 求,  
北爪智啓, 小林忠夫, 斉藤尚人, 須藤隆司, 関谷友彦,  
竹下欣宏, 寺尾真純, 都丸亜希子, 都丸祐汰, 中島嘉  
江, 中村由克, 野村 哲, 増岡慎弥, 真野勝友, 光井  
久, 和田晴美 以上21名

第5回発掘 (2016年10月29日-30日)

麻生敏隆, 今井 洋, 神戸 求, 小林忠夫, 斉藤尚人,  
関谷友彦, 寺尾真純, 中村由克, 樋口邦弘 以上9名